



平成24年5月 国立大学法人
帯広畜産大学の取り組み

創立70周年記念事業

逍遙舎が完成

帯広-JICA協力隊連携事業
(パラグアイ)開始

北海道大学との
「共同獣医学課程」開始

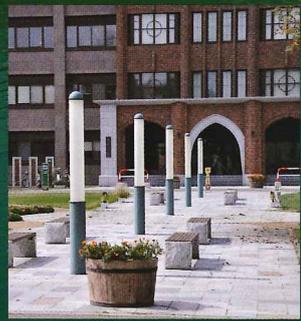
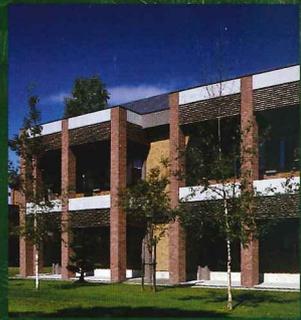
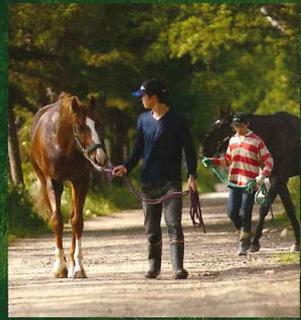
帯広市文化スポーツ振興財団
と連携協定締結

家畜防疫に関する研究・教育・実務を担う
「家畜防疫研究室」を設置

第1回畜大ふれあい
フェスティバル開催

学生による東日本大震災支援
課外活動等で本学学生大活躍

帯広市まちづくりデザイン賞
(まち創り部門)受賞



逍遙舎



Obihiro University of
Agriculture
&
Veterinary Medicine

<http://www.obihiro.ac.jp>

創立70周年記念事業

本学は、昭和16年に軍馬の獣医を養成する帯広高等獣医学校として創立されてから、70年を迎え、平成23年10月8日に「創立70周年記念式典・記念祝賀会」を開催しました。記念式典は、最初に、東日本大震災の被災者に対して黙祷を捧げたのち、長澤秀行学長の式辞、文部科学省大臣官房審議官、帯広市長、北海道大学総長の祝辞があり、続いて、祝電披露、本学マンドリンサークルによる逍遥歌の演奏、長澤学長による大学紹介がありました。

記念祝賀会の前に、帯広畜産大学同窓会長から、創立70周年記念会館の「逍遥舎」の引渡し式があり、続いて、逍遥舎の前での鏡開きにより、和やかに祝宴が行われ、当日は、晴天にも恵まれ、地元企業、同窓生や教職員など400名が参加して、盛大に行われました。また、平成23年10月6日には、本学同窓生でもある、福島県飯館村村長 菅野典雄氏が「までいが日本を救う? -「お金の世界」から「いのちの世界」へ-」の講演会が、10月7日には、旭山動物園長 坂東元氏が「伝えるのは命の輝き」の講演会があり、両日とも、多くの学生・教職員、同窓生、一般市民が参加し、講演の後、大きな拍手をもって終了しました。



旭山動物園園長 坂東元氏



逍遥舎が完成

帯広畜産大学同窓会が、創立70周年記念「同窓会館」建設事業として取り組まれた会館が完成し、平成23年10月8日大学に引き渡されました。同会館の名称は、同窓生へ公募し、「逍遥舎」と決まりました。この建物は、木造平屋約80平方メートルの角口グハハウスで、約50平方メートルのウッドデッキを設け、焼き肉など野外の飲食も楽しむことができます。内部には会議室、事務室も設けてあり、同窓生、教職員・学生の交流の場として利用されています。



帯広-JICA協力隊連携事業(パラグアイ)開始

本学とJICAは、平成24年度から6年間、在校生及び卒業生を青年海外協力隊員として南米パラグアイ国に派遣して、酪農技術の向上支援を行うこととなりました。その間派遣する隊員数は、長期隊員(派遣期間約2年間)、短期隊員(派遣期間約2カ月)合わせて37名程度で、長期と短期を組み合わせたボランティア派遣事業は、我が国で初めての取り組みです。この事業等を通じて学生を積極的に海外に派遣することにより、世界の畜産衛生フィールドで活躍できる国際専門職業人(グローバル人材)の育成に努めていきます。



北海道大学との「共同獣医学課程」開始

平成23年10月8日、北海道大学と平成24年4月から開始する「共同獣医学課程」の編成及び実施についての協定書に調印しました。この「共同獣医学課程」の目的は、社会のニーズに対応した質の高い獣医学教育を実現するとともに、それぞれの優れた教育資源を結集して共同で魅力ある教育研究・人材育成を行い、国際通用性のある獣医学教育の充実を目指しています。「共同獣医学課程」の学生は、入学を許可された大学に本籍を置きますが、今年度から双方の大学の講義や実習が受けられるようになり、学位記も、両大学の連名で行うこととなりました。



帯広市文化スポーツ振興財団と連携協定締結

平成24年3月30日、財団法人帯広市文化スポーツ振興財団と文化やスポーツを通じた社会貢献や振興に寄与することを目的として、連携協定を締結しました。この協定の目的は、文化・スポーツ又はボランティア活動を通じて協調性や社会性を涵養し、「社会に貢献する人材を育てる」という大学の使命を連携して実現することです。今後は、学生の課外活動の支援、施設の相互利用や連携共同事業を行うことにより、地域の文化・スポーツの普及及び振興を目指します。



第1回畜大ふれあいフェスティバル開催

平成23年12月3日、帯広駅前の「とかちプラザ」において、第1回畜大ふれあいフェスティバルを帯広市教育委員会、釧路工業高等専門学校との共催で開催しました。長澤学長から、「帯広畜産大学におけるグローバル人材の育成」と題した講演があり、十勝管内の高校理科クラブの研究成果発表と、帯広畜産大学の学生サークルの活動報告が行われました。展示・体験会場では、動物の骨格標本、搾乳体験などの展示や、牛乳とうふ作りのほか、釧路工業高等専門学校による様々なロボットの展示もあり、来場者の関心を集めていました。用意したスタンプラリーカードが無くなるほどの盛況ぶりでした。



学生による東日本大震災支援

本学は、帯広信用金庫と連携して、平成23年11月3日に開催された「2011ふるさと名取秋まつり～復興祭～」(宮城県名取市)へ学生ボランティア団11名(うち学生7名)を派遣して支援活動を行いました。全学農畜産実習等授業で学生達が育てたジャガイモ、豚肉、小豆などを持ち込んでクリームシチュー、カレーライス、お汁粉を振る舞いました。当日は、好天にも恵まれ本学のブースには、長蛇の列が出来るほどの人気となり、用意した食材の全てを完売し、売上金を名取市に寄付し、復興支援に役立ててもらいました。



課外活動等で本学学生大活躍

平成23年11月26日から釧路アイスアリーナで開催された『第15回大学女子アイスホッケー大会』で、女子アイスホッケー部が準優勝、12月9日から「カールブレックスおびひろ(帯広市)」で開催された『第2回全日本大学カーリング選手権大会』で、男子カーリング部が優勝を果たしました。また、平成24年2月29日～3月2日に東京食肉市場で開催された「第4回全日本大学対抗ミートジャッジング競技会(日本ICMJ)」では、大学対抗部門で本学が初優勝に輝き、個人でも4人が上位入賞を果たしました。



家畜防疫に関する研究・教育・実務を担う「家畜防疫研究室」を設置

平成23年4月、家畜防疫に関する応用研究を推進し、実践教育による人材育成を行い、家畜生産および食の安全確保、そして地域の課題解決に寄与することを目的として、畜産フィールド科学センターに『家畜防疫研究室』を設置しました。来学者、教員・学生等に対する農場訪問時の防疫強化と海外渡航時の注意喚起リーフレットの作成(キャンパスの家畜防疫推進)や家畜防疫研究アドバイザリー会議、海外悪性伝染病講習会(十勝管内の関係機関との連携による家畜防疫強化)などに取り組んでいます。



帯広市まちづくりデザイン賞(まち創り部門)受賞

本学は、第7回帯広市まち作りデザイン賞(まち創り部門)を受賞し、平成23年10月27日帯広市役所において表彰状と記念の盾が授与されました。この賞は、帯広市の風土と調和した優れたデザインの建築物やまち創りに関する活動を行う団体・個人を広く募集して表彰するもので、帯広市都市環境デザイン委員会選考・現地視察の結果、本学が受賞したものです。本学は「地域にひらかれた親しみの持てるキャンパス形成」をめざし、キャンパスマスタープランに基づいた整備を継続しており、各施設のデザイン・色彩の連続性や、各種サインの統一感、開放的な正門などが高く評価され、今回の受賞となりました。





学長からのメッセージ

知の創造と実践によって
実学の学風を発展させ、
「食を支え、暮らしを守る」
人材の育成を通じて、
地域および国際社会へ貢献する。

(第二期中期目標計画に掲げた本学のミッション)

帯広畜産大学長 長澤 秀行

本学は、生命、食料、環境をテーマに、農学、畜産科学、獣医学に関する教育研究を推進する、我が国唯一の国立農学系単科大学です。

「農と食」を支える農学、畜産科学、獣医学は、いずれも実学を重視した学術分野であり、知の創造と実践は、人々の生活に根ざしたものでなければなりません。自然を相手に営む産業である「農業」と、私たちの健康の源となる「食料」に係る諸課題は、必然的に、現代社会が抱えている地球規模課題である気候変動、食料安全保障、環境問題、エネルギー問題、感染症などと密接に関連します。従って、これらの地球規模課題の解決には、農業を支える農学分野の学術貢献が必須となります。また、以前には愛玩動物やペットと呼ばれていた動物たちが、今では私たちの生活に密接に係わる伴侶動物、あるいはコンパニオンアニマルと呼ばれるようになり、心の健康を保つ重要な仲間と認識されるようになりました。従って、本学のミッションである「食を支え、暮らしを守る」人材はグローバル人材であり、その育成は国立大学法人として重要な責務です。

グローバル化した現代社会の流れは速く、既成の概念、常識、価値観では対応できない事柄が多く存在します。今、新たな価値観の創出と社会システムの変革が求められており、そのためには、社会の変化に対応しうる、広い視野を持った、科学的根拠に基づく学術貢献が重要であり、このことを理解し実行できる「グローバル人材」が必要です。

本学は、以下の4つのビジョンに基づきグローバル人材の育成を推進します。

1. 恵まれた自然環境を活かしつつ、潤いと活気があり、豊かな人間性を醸成できるような「学びあいのコミュニティ」を創出する。
2. 獣医・農畜産融合の視点から、幅広い見識と国際性を有し、実践力のある人材の育成を目指す。
3. 生命・食料・環境の分野に関し、地球規模課題の解決に向けて、トップレベルの学術研究拠点となることを目指す。
4. 創造的、学際的な実学研究の成果を社会に還元して、地域および国際社会の持続的発展に貢献する。

帯広畜産大学の概要

大学の沿革

昭和16年 4月	帯広高等獣医学校
昭和24年 5月	帯広畜産大学
平成16年 4月	国立大学法人帯広畜産大学 畜産学部(獣医学課程、畜産科学課程) 大学院畜産学研究科(修士課程、博士前期・後期課程)

学生数

※平成24年5月1日現在

	男	女	計
学部	598	559	1,157
大学院 (修士・博士前期)	49	50	99
(博士後期)	20	12	32
別科	30	7	37
合計	697	628	1,325

役員・教職員数

※平成24年5月1日現在、()は非常勤で内数

役員	6	(3)
教員	122	
事務・技術等職員	96	
合計	224	(3)

留学生数

※平成24年5月1日現在

	男	女	計
21カ国から	42	33	75

帯広畜産大学広報室

〒080-8555 北海道帯広市稲田町西2線11番地 TEL.(0155)49-5228 / FAX.(0155)49-5229

mail kouhou@obihiro.ac.jp